

中学生の
職場体験活動

生き方探究・ チャレンジ体験



京都市立中学校・小中学校・総合支援学校

生き方探究・チャレンジ体験とは

自らを見つめ、生き方について考えを深めながら自ら学ぶ力などを育む取組で、京都市立中学校・小中学校・総合支援学校の生徒が、それぞれの興味や関心に応じた様々な職場体験や勤労体験を、約3,500の事業所等の協力のもと、各学校の計画に基づき実施しています。

京都市教育委員会

社会的・職業的自立に向けて「生き方探究教育」を推進

京都市では、すべての教育活動において、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことができるようにする「生き方探究教育」（キャリア教育）を推進しています。本事業は「生き方探究教育」の重要な柱の一つとして実施しており、生徒にとって地域・社会との関わりの中で、自らの在り方と生き方を考えるかけがえのない機会となっています。



働くことの厳しさと喜びを実感

本事業は、各学校独自の取組を発展させ、平成12年度から開始しました。以後、毎年約1万名の中学生が参加し、約3,500の事業所等の御協力のもと、かけがえのない貴重な体験をしています。

事業所の方々とのふれあいを通じて「働くことの厳しさと喜び」を実感した生徒たちは、「新たな自分を発見する」など多くの実りを得ています。

体験日数を学校独自に設定

本事業がより効果的なものとなるよう、また、生徒が体験活動の達成感をより深く実感できるよう、事前・事後学習の充実を図りながら、体験日数を学校独自に設定（連続3日～5日間）しています。

事業所の皆様には、御負担をおかけしますが、子どもたちの今と未来のため、一層の御支援・御協力をお願いします。

保育園での 忘れられない体験 O.Mさんの体験記

体験前

仕事調べ・交通調べ・事業所訪問

保育園のことを調べるととても楽しそうで早く行きたいと思いました。

1日目

午前

一緒に遊ぶ・

おゆうぎ会の練習 おゆうぎ会の道具作り

何をすればいいかわからず困ったとき、丁寧に教えてもらって嬉しかったです。

午後

昼寝、おやつ補助

おゆうぎ会の練習 おゆうぎ会の道具作り

2日目

午前

音楽教室・体操

「ぶんぶんぶん」「遊び虫」 おゆうぎ会の道具作り

少し慣れてきて、園児がなついてくれて嬉しかったです。先生が園児と同じ目線で一緒に取り組んでおられる姿が印象的でした。

午後

昼寝、おやつ補助

おゆうぎ会の練習 おゆうぎ会の道具作り

3日目

午前

一緒に遊ぶ・

おゆうぎ会の練習 おゆうぎ会の道具作り

他クラスの園児とも仲良くなり、家で絵を描いてきてくれたり、おゆうぎを見せてくれて嬉しかったです。

午後

昼寝、おやつ補助

おゆうぎ会の練習 おゆうぎ会の道具作り

4日目

午前

一緒に遊ぶ・

おゆうぎ会の練習 おゆうぎ会の道具作り

クラスの園児みんながなついてくれて、仲良く遊べて良かったです。

午後

昼寝、おやつ補助

おゆうぎ会の練習 おゆうぎ会の道具作り

5日目

午前

一緒に遊ぶ・

「お楽しみ会」で バレエを踊った

他クラスの園児や先生も見に来てくださり、「お姉ちゃんすごい、私もやってみたい」「また来てね」と言ってくれてとても嬉しかったです。

午後

昼寝、おやつ補助

おゆうぎ会の練習 おゆうぎ会の道具作り

体験後

お礼状作成など発表会

5日間の体験が終わり、とてもさみしく感じました。

Q 体験活動までの流れは どのようになっていますか？

A 実施時期や日数は学校毎に違いますが、それぞれの学校で年間計画の中に位置付け実施しています。学校で事前学習や指導を行った後、生徒自身が各事業所へ事前に訪問し注意事項を確認しています。また、生徒はもちろん保護者や地域の方にも参加いただいて報告会を行うなど成果の共有を図っています。

Q 体験する事業所はどのように 探しているのですか？

A 各学校が、地域の事業所を中心に、受け入れていただける事業所を探して協力をお願いしています。PTA・地域の方、福祉・教育関係団体、経済団体からも事業所を紹介していただいたり、自ら受け入れてもらったりしています。また、公共施設などでも積極的に受け入れていただいています。

Q 事業所への行き帰りや体験中に 事故などが起こったときは どうなるのですか？

A 事故などが起きないように事前にしっかりと体験内容を調べたり、行き帰りの交通安全についても細やかに指導しています。しかし、万が一事故が起きた場合には京都市教育委員会へ加入している傷害保険・賠償責任保険等から必要な補償がされることになります。

中学生が夢に向かって大きく羽ばたくために ～素晴らしい出会いと体験～

体験の実施前、中学生を受け入れる事業所も、子どもを送り出す保護者も教職員も、中学生本人も「ちゃんとできるかな」と心配しましたが、素直でまじめに「仕事」をやり通し、最後はみんな「ありがとう」の言葉に変わりました。

生徒たちの声

●自分が通っていた保育園に、7年後にチャレンジ体験という違った視点で行けたことにより新たな夢ができました。

●職場体験までは勉強とかどうでもいいと思っていましたが、職場の方のお話を聞いたり、実際にやってみたりして、学校でやっていることは実はすごく大切なものなんだと気づきました。

●改めて自分の将来について考え直すことができました。働くことの楽しさをたくさん見つけることができ、周りの人の協力やたくさんの人の支えがあって、今自分はここにいるということがわかりました。

●実際の仕事をして自分の視点が変わった。今までは「生徒」として先生を見ていたけれど、「先生」という立場で生徒のことを見るのができた。すると、「みんなに話を聞いてほしい」とか「ご飯を残さないでほしい」という先生目線が出てきた。これからは「いろいろな視点」を大切にしていきたい。

保護者からの声

●初日に「仕事って大変やなあ」と言う子どもの姿を見て、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきました。体験を通じて相手の立場になって考える大切さも学べたようです。自分なりに考え、一生懸命取り組み、人の役に立つ喜びを感じたと思います。

●帰ってきた子どもは、大変疲れたようでしたが、体験先での出来事を沢山の笑顔で話してくれました。思春期で親に言われたことで腹を立てることも多くなっていた中、子育ての大変さや、たくさんの人に支えられ

て今の自分があることに気がついてくれたようです。

●チャレンジ体験が終わった後も体験先のことが気になるようで、よく思い出しているようです。働くこと、表現すること、決まりを守ったり、物事に取り組む姿勢等、数々の大切なことを学んだと思います。すべてにおいて、自己管理がいかに大切かという事を親に説明するなど素晴らしい学びの場であったと感じています。

事業所の皆様からの声

●生徒さんのやる気と自分から率先して仕事を探す姿勢は、お店としても学ぶべきところがありました。

●当社では、CSRの一環として取り組んでいます。従業員にとっても仕事に対する意識の向上につながりました。

●生徒と取り組むことで当社も新たな発見や考え方の見直しを社内で協議することができました。お互いに成長できる活動と感じています。

教職員の声

●新規事業所を開拓し自ら事業所に電話をして、受け入れが可能かどうかを聞いた生徒もいました。自分の事は自分で行うということや、体験先の方々が自分たちのために時間をかけて関わってくださっていることを感じてくれればと思います。

●生徒が自ら考えて行動する姿が、当日以外でも多く見られました。また、保護者アンケートなどにも家庭でいろんな話ができたという内容もあり、生徒が生き方を見つめ直す体験になったと感じています。



感動が人を育てる



京都市長 門川 大作

「まちづくりは人づくりから」。次代を担う子どもたちの育成は歴史と伝統を大切にしながら輝かしい未来の京都を創り出していく

上でとても重要です。

14歳の挑戦！学校や家庭では得られない体験を通じて自分を見つめ、「働くこと」「学ぶこと」の大切さを知る子どもたち。その子どもたちを快く受け入れていただいている事業所の皆様との間にたくさんの感動のドラマが生まれています。

今後とも、市民の皆様の一層の御支援・御協力をお願い申し上げます。

社会全体で子どもたちの 生きる力を育む



京都市教育長 稲田 新吾

本事業は、中学生が真剣に働く大人の姿に出会い、ふれあうことを通じて、働くことの厳しさや喜びを実感するとともに、自らを見つめ、生き方について考えを深めながら、自ら

学ぶ力を高めるために実施しております。本事業の実施にあたっては、各事業所様をはじめ、多くの市民の方から温かい御協力をいただいておりますが、まさに、「地域の子どもは地域で育てる」という皆様の御熱意で実現できている事業であり、御支援いただいている皆様に心から感謝申し上げます。

今年度は、本事業の教育的意義を踏まえ、各学校において事業所様とも御相談のうえ、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、可能な限り取り組むこととしておりますので、引き続き、御理解、御協力をお願いいたします。

学校・家庭・地域が一体となって未来を切り拓く「生きる力」を育む 「生き方探究・チャレンジ体験」の成果

地域の子どもは
地域で育てる

「生きる力」を育む絶好の場
学 校

- 学校では見られない生き生きとした生徒の姿に体験活動の重要性を再認識
- 地域社会の持つ豊かな教育力を実感
- 地域の方々に中学生の姿を知ってもらう良い機会
- 教職員が地域とのつながりを深める好機

自分を見つめる
中学生

- 多くの素晴らしい人々との出会い
- 自分らしい生き方の探究
- 地域社会に自分の活躍の場を発見
- 仕事の厳しさ、大人の温かさを実感

子どもと語り合う好機
家 庭

- 子どもとの会話の時間が増加
- 貴重な体験を通じて親の生き方を再認識
- 子育て観をあらためて見つめ直す機会
- 地域社会を知る良い契機

子どもを理解し、地域を活性化
地 域

- 「地域の子どもは地域で育てる」という気運の高まり
- 出会いにより中学生に対するイメージが変化
- 職場や地域の活性化に役立つ
- 子どもたちの地域づくりへの意識の育成

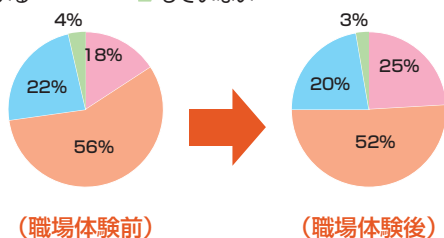
「生き方探究・チャレンジ体験」

アンケート結果

生 徒

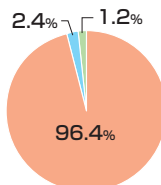
学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来のつながりを考えたりしていますか。

- よくしている
- あまりしていない
- している
- していない



職場体験は、これから生きていくときにいろいろな場面で役立つと思いますか。

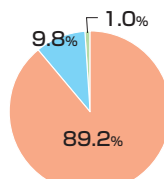
- 役立つと思う
- あまり役立つと思わない
- 役立つと思わない



保護者

お子さんと職場体験のことを話し合われましたか。

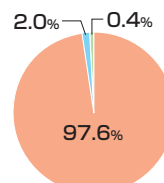
- 話し合った
- あまり話し合わなかった
- 話し合わなかった



事業所

来年度も、この活動にご協力をお願いできますか。

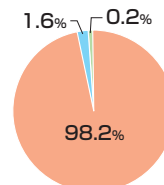
- 協力したい
- あまり協力したくない
- 協力したくない



教職員

生徒は、働くことには楽しさや苦しみがあることがわかったと思いますか。

- わかったと思う
- あまりわからなかったと思う
- わからなかったと思う



■お問合せ先

京都市教育委員会 京都まなびの街生き方探究館

〒602-8031 京都市上京区西洞院通下立売下東裏辻町402

TEL 075-253-0880 FAX 075-253-0878

URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/scfp/>

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で

「京都はぐくみ憲章」を実践しましょう!



京都市
CITY OF KYOTO